３つの森林活動

みなさまの参加を
お待ちしております

小原本陣の森

第１・３日曜日

知足の森

第１・３日曜日

相模湖・嵐山の森

不定期活動

News　NPO法人緑のダム北相模
midorinodam.jp

No.519-520

相模原市内小学生を対象とした体験学校を開催しました

【定例活動報告】
草莽荘（そうもうそう）の森

緑のダム北相模は相模原市内で活動する森林ボランティアです。急がず、無理せず、楽しく、休まず、 ボチボチと・・。

第１日曜日の活動より

8月になりいよいよ、夏本番の季節が来た。昨年12月に会員になられた林哲久さんが参加された。竹炭・竹酢液・竹の燻製をドラム缶窯で作る装置を特許申請されている方です。

小原活動エリアの四阿の花畑最下部に竹林があり、今後竹林整備した際の間伐竹の処理等に関して一定の方法を構築しておく必要があると思われますので専門の作業班を設置する必要がでたためである。

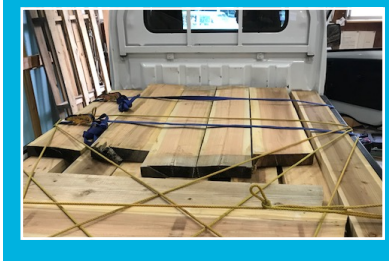
林氏が特許申請されている簡易型のドラム缶窯を設置頂き竹林作業班として

近隣の竹林整備に貢献し竹炭などの有用な資材に加工頂ける期待があり、地域への貢献に幅が生まれるので期待だ。

午後からは、MORIMOに間伐材の製材依頼をして出来上がった板材を軽トラで取りに行った。学芸大で机の天板用の板と私の知人で茅ケ崎市で材木店を経営している佐々木氏にトラックで残り半分を活用いただくことになった。

コロナ禍の中ではあるが、遅ればせながら小原エリアでの活動基盤が見えてきたような気がする。

コロナウィルス蔓延を通じて自然環境を守るべき日本人の考え方に目をそらさず緑のダム北相模にできることをしっかり行っていきたいと思います。



第３日曜日の活動より

お盆時期で、夏本番で相模原市の気温も36度超えの猛暑を迎えた。今日は四阿の花畑下の竹林から竹を運びドームハウスを作るお手伝いをした。中高生の皆さんと一緒に竹を切り四阿まで運び4m長の竹を割り工作した。中高生の皆様は昨日底沢で沢遊びをしてこられて今日で二日目である。

私は、嵐山の整備している空き家に宿泊して眠れないまま早朝道志川でシャワーを浴び本日活動に合流したわけだがかなり疲れていた様で暑さの中、熱中症ぎみになった。私を皆さんが気遣ってくれ改めて皆さんに感謝の気持ちでいっぱいの活動日であった。

夕方に向けタケドームハウスの製作を高校生のリーダー指示で行った。竹が若いため腰が弱いこともあり完成に苦難したが、補強作戦で見事完成した。日が落ちてきてドームハウスに集まり自然に関する映像を観賞して活動が終わった。

小林　照夫（本会、理事）

【定例活動報告】知足の森

第１日曜日の活動より

学芸大のEXPLAYGROUNDのGTEラボから中学生が本格的に参加するようになり、森の活動もにぎやかさが続いている。今回は午前は長福寺の広葉樹林で、午後はいよいよ間伐に入った。ボサ刈りは作業自体は難しくないが、なにせ量が多く斜面全体もほぼ真っ暗で、１本１本地道に切って、枝を払い、綺麗に並べていくしかない。飽きられてしまうのが先か、面白さが先にきて、作業が止まらなくなるか、初参加者はだいたいそのパターンである。参加者も１５名を超えているので大学生や高校生が適宜間に入り、指導をしながら作業が進んだ。この森もやはり斜面がきつく、校庭や公園の草刈りとはわけが違う。まずは体のバランスを取り、足がしっかりついて、ノコギリを払うのではなく、引いて切る、切ったら切ったであちらこちら引っかかってしまう。どの木から切って、どちらに引っ張って、ということ自体を考えなければならない。その面白さにはすぐ気づいたようであっという間に午前の作業が終わった。午後からは川田さん、小林さん、石井さんも入っていただき、小径木に受け口を作り間伐を行なった。最後に全員で２０mの木を切った。子どもたちのインパクトはやはりすごかったようで、家で延々と間伐の方法について親御さんに語りまくった、という話も教えていただいた。活動自体はいいスタートを切っている。

宮村　連理（本会、副理事長）

桜井尚武の森のコラム

「ゴンズイ（*Euscaphis japonica*）」

図1 初冬のゴンズイ

20181223草戸山

図2 ゴンズイの果実

20181223草戸山

図3 落葉直前の葉

20181223草戸山

図4 ゴンズイの若葉

20190717南千住

図5 ゴンズイの樹皮

20181223草戸山

町田市の最高峰という草戸山(364m)の頂上付近で濃い赤紫を盛り上がらせた樹木を見つけました（図1）。何の木かとんと見当がつきませんでした。近付いてみると赤い果皮が弾けた中から黒い種子が顔をのぞかせている（図2）、ゴンズイでした。そばに濃く黒みがかった赤紫の葉をまだ残している幼木がありました（図3）。

ゴンズイはミツバウツギ科の落葉小高木。葉は奇数羽状複葉で対生します。小葉は7～9枚で鋸歯があり中脈や側脈に短毛があるほかは無毛、小葉の先は細くとがります。柔らかく厚みがある葉で若芽はお浸しなどの食用にできるといいますがまだ試していません（図4）。分布は茨城県、富山県から西の日本各地の山地帯と台湾と朝鮮・中国といいます。かなり鑑賞に堪えるし山菜でもあるというのですが用途は案外乏しく、役に立たない魚のゴンズイのようだということからゴンズイといわれるという説が有力です。木肌の縦筋が魚のゴンズイの黄色い筋に似るのでこの名がついたという記載もありますが他にも諸説があります（図5）。諸説があるということは、それだけ興味を持たれているということでしょう。最近は並木樹や公園樹として目にすることが増えています。

桜井　尚武（本会、会員）

【若者の森づくり】地球環境部

第１日曜日の活動より

今、私のケータイのホーム画面は「雑木林で見上げた空」の写真だ。木漏れ日が好きで、大学構内に入ると登校中によく観ている。小学生の頃、宿泊生活の登山では山を登ることに必死で常に下を向いてしまい、コケを見つめて歩きつづけた。頂上に着いて、上を見ても空しかない。それはそれでやり切ったという達成感があるものの、なにか物足りなく感じた。

今回の活動は1本の木を伐る、枝打ち、追い口受け口、聞く言葉さえ初めてだらけだった。道は狭いし、坂はキツいしで何事かと思ったが、木を伐る時のギシッという音、細い幹なのに樹高は高いことへの驚き。新鮮さとともに技術面での学びとチームワーク、そして「木の下から見上げる景色」を知った。木を伐る時も転んだ時も必ず上を見る。空の青さ、電線、飛行機は全く見当たらない陽の光と葉が重なり合った様子がたまらなく綺麗だった。森には街を歩いている時には感じられない「うわぁ」がたくさんある。心から「また行きたい!」と思った。

飯泉　絢音
（GREEN TECH ENGINEER LAB 中学１年）

【若者の森づくり】ForesTo Class

活動再再開
～知足の森西側からのアプローチ～

先月は新型コロナウイルス感染者がまた増えたため急遽活動を見合わせました。今月からは人数も少なく活動場所も十分に距離を保てると判断し、再開に踏み切りました。朝一は刈払い機の補修作業を行いました。機械のパーツは細かいので、取扱説明書を見ても取り付けが難しかったです。機械の知識も必要だなと思いつつ、山の中へ入っていきます。

この日はまさに真夏日でとにかく暑い。そして森の中は蚊が多く、早速いくつか刺されてしまいました。タオルで首や顔を覆いながら中腹部へ向かいます。前回の活動では知足の森東側から上がっていきましたが、今回は西側のエリアを見通していきます。メンバーの二藤さんの千里眼でどうやって上がっていくの得策か、考えながらの移動になります。

二藤さんから獣道があると教えてくれるのですが、素人のわたしにはピンとこず、何度か教えてもらうと少し平らで草木も周りと比べて少ないところが見えてきます。そこに動物が歩いていたんだなと思いを馳せながら進みます。獣道も鹿などの動物が歩きやすくて通っているので、人間にとっても当然歩きやすく、途中そこを通過していくことにしました。しかし、獣道を歩く時は注意しなければなりません。ここには自然の摂理があって、ダニなどの寄生虫が枝葉にいることがあるので整備する際には気をつける必要があります。

途中、暑さと蚊の鬱陶しさで気持ちが何度となく折れそうになりましたが、なんとか尾根筋までの作業道を見つけていきここでお昼となりました。いったん引き返すことも考えましたが、また上がるのが辛いため山頂まで目指すことにしました。ここからは尾根筋ということもあり、大きな岩が露出するような環境で歩きにくくなります。それでも山頂まで諦めず、とうとう尾根筋の頂へ到着すると、そこには平らで歩きやすい景色が広がります。

前回もそうでしたが、急に線状に平らな土地が出現する感覚はとても神秘的で、静かで明るくなる様子を見ると達成感が込み上げてきます。

今回はここで降りていき、活動は終了です。とてもハードで二藤さんに付いて行くのがやっとで

したので、次回は作業道の着手を頑張りたいと思います。

滝澤　康至（ForesTo Class）

■ **林業プロの視点 ～二藤の眼～**

　まだまだコロナや厳しい暑さが続いていますが、今回も引き続き作業歩道のルートを決めるための踏査を行わせてもらいました。以前の記事で作業歩道を作る上でのポイントなどは書かせてもらいましたが、おさらいすると作業歩道は使う対象者によって道の作り方を変えるです。

　今回、道を頻繁に使う事になる対象者は小中学生などの山歩きにあまり慣れていない人たちです。よって直登するような傾斜がきついルートは避け、出来るだけ傾斜が緩い道にする必要があります。幸いな事に歩道を開設する山の傾斜は緩い所が多いので、踏査では急がば回れで距離は多少長いですがグネグネと蛇行しながら緩いルートを策定する事ができました。

　さてそのルートを決めていく上での今回のポイントですが『痕跡を見つけること』です。山には大体、鹿や猪などの獣が歩く獣道と昔、開設され利用されていた歩道があり、１番手っ取り早いのはその痕跡を見つけ、それを利用させてもらう事です。今回も昔の歩道は残ってはいませんでしたが、獣道は沢山あり、それを多く利用させてもらいました。ただその痕跡を見つけられるかどうかは、普段から山に入って意識して山を見ていないとなかなか難しいので、経験が必要かもしれません。意識して見るという事を繰り返していけば、きっと見えなかったものも色々と見えてきますので、意識するという事が大事だと思います。登山などしていても今まで何気なく見ていたものの中に何か発見をしたり、違う見え方が出来てくるとより山の魅力や素晴らしいを感じられると思うので、是非、痕跡探しにチャレンジしてみてはどうでしょうか？

二藤　政毅（ForesTo Class）

【イベント報告】
緑のダム体験学校

　神奈川県の助成と相模原市教育委員会後援で毎年開催しています、緑のダム体験学校を今年も開催しました。近隣の相模原市立小学校にチラシを配布をし、かつ申し込みをウェブ入力（Google Form）にしてから幅広い小学校から参加してくれるようになりました。今回はコロナ対応もあったため、定員を１０名にしましたが早々に締切、スタッフ中高生も１０名が参加しての規模が大きい活動になりました。例年、２日目は竹の流しそうめんでしたが、コロナ対応できないため、今年は、竹を切って、６～８本に割り、ドームを作り、夕方にネイチャー系コンテンツを試写する竹ドームシアターを実施しました。

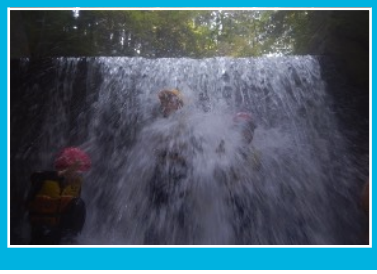
　初日の沢探検は昨年と同じコースで実施しました。午前は思い思いのペースで上流の滝を目指し、５、６人ごとのチームで記念撮影。滝は登れる人だけでいいよ、と思っていましたが、全員がわきからするするっと登ってしまいました。さらに流れる滝そのものを登ってしまう強者も現れ、こっちはヒヤヒヤでしたが、大盛り上がりでした。お昼もさらに上流の流れが緩やかな部分で、沢に足をつけながら。沢の端で流れから外れて残っていた水たまりにいる小魚を救うんだと、みんなで流れをいじって、いやむしろそんな泥だらけにしたら死んじゃうじゃないか、と心配しながら見ていましたが、土木工事に大盛り上がりになり、ついには入口と出口の水路を作り、蛇行した新しい沢が出現しました。本人たちは満足げでした。

　午後は昨年は砂防ダム飛び込み大会でしたが、台風で多くの土砂、コンクリートの大きな塊が滝壺にあるため、飛び込みは断念。しかしそこは子どもたちの想像力。滝行やら潜って遊ぶやらで、あっという間に時間は過ぎました。

　２日目の竹ドームは竹を切る、割る、決められた長さに切る、穴を開ける、とこちらは作業が順調に進みました。竹林はお花畑の斜面の下にあります。斜面上部には東屋もあり、日陰があり、作業は気が楽になります。シアターの会場は永井さんにお借りして、早々に移動。会場にした梅林には風が相模川からちょうど流れてきて、日陰でもあって、涼しい、涼しい。しかし、試作ではうまくいって気づけなかった、竹が若いとしなり過ぎてしまって、ドームが立たない事が発覚。２度３度組み直して、ちょっと支柱を足して無事に完成。制作指導に大人がほとんど口を挟まず、高校生だけで仕切ってできてしまったことは感動的でした。（実は仕切りリーダーが直前に発熱したため、大ピンチでしたが、残り２名がなんとか踏ん張りました）流しそうめんも思い出に残りますが、薄暗くなりかけた竹ドームの中でのシアター体験もなかなかのものでした。活動タイムスケジュー

ル自体は早巻きで解散しましたが、駅解散直後には豪雨が来てしまったのでこちらもラッキーでした。高校生たちがチラシ作りから、試作、買い出しと実際に行い、大きな成果になりました。

宮村　連理（本会、副理事長）



NPO法人
緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
現地事務局：〒252-0172　相模原市緑区与瀬本町12　かどや食堂内
支援団体：セブン-イレブン記念財団
積水ハウスマッチングプログラム、国土緑化推進機構
コンサベーション・アライアンス・ジャパン
協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、
東京学芸大学環境教育研究センター、
（社）東京学芸大EXPLAYGROUND推進機構、
（社）さがみ湖 森・モノづくり研究所、ウッドバンク㈱

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前に集合です。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、昼食

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

緑の募金　一般財団法人 セブン-イレブン 記念財団　SEKISUI HOUSE MATCHING PROGRAM　CAJ Conservation Alliance Japan 一般社団法人 コンサベーション・アライアンス・ジャパン